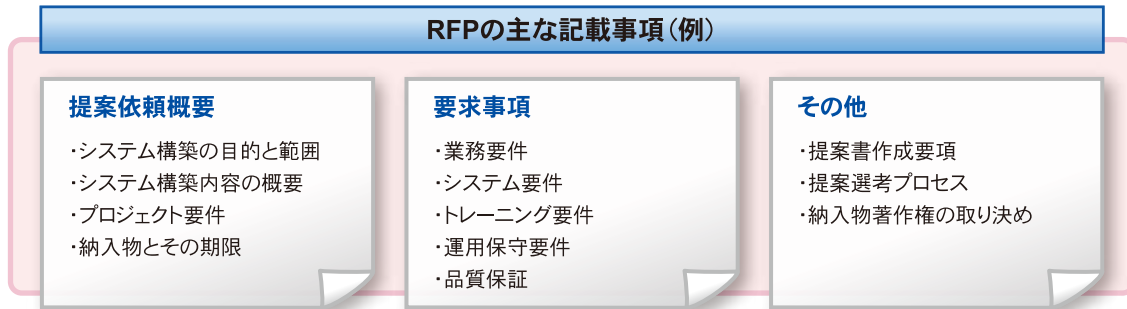


1. RFPとは?

RFP (Request For Proposal) とは、『企業が求めているシステムについての基礎情報』が記載されたドキュメントです。

自社にはどのようなシステムが必要で、そのシステムにはどのような機能が求められ、いつまでに構築する必要があるのか? — システム導入企業は、『誰が、どのように使うシステムを、いつまでに作れば良いのか』というシステムへの要求事項をRFPに記載します。そして、システム開発ベンダーは、システム導入企業から受け取ったRFPに基づいて、システム構築案を提案することになります。

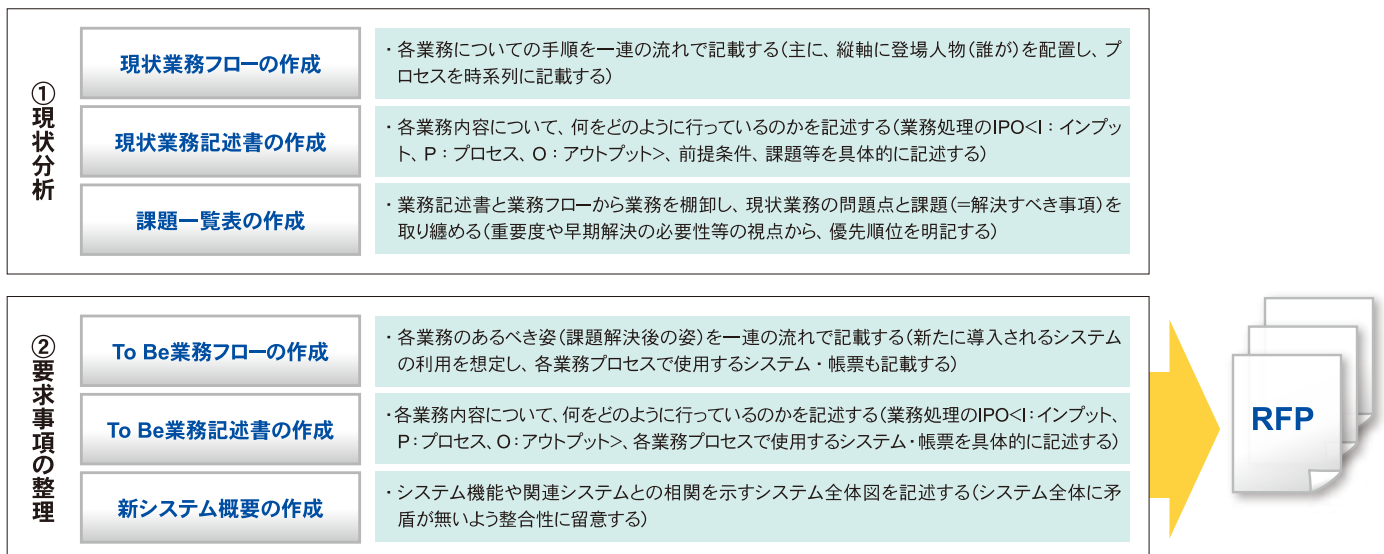
RFPは、システム構築の基本となる重要な情報です。従って、様々なシステム要求事項を、如何に正確に、わかりやすくRFPに記載できるかが、「システム、及びシステム構築プロジェクト」の成否を左右すると言っても過言ではありません。



2. RFP作成支援サービス

RFPを作成するためには、①自社が抱えている問題点や解決すべき課題を洗い出し(=現状分析)、②課題を解決するために「自分たちに必要なものは何か」(=要求事項)を整理します。最終的に、これらの要求事項を『業務要件・システム要件』として取り纏め、RFPを完成させます。

クロスフィールドのRFP作成支援サービスは、現状分析や業務要件の精査から、あるべきシステム像の検討までを一貫して手掛けるだけでなく、システム構築上不可欠な品質保証や納入物定義などのプロジェクト管理に至るまで、きめ細かなサポートを提供します。



3. プロジェクトアプローチ

現状分析から要求事項の整理/RFPの作成、更に、ベンダー選定～システム構築プロジェクトスタートまでの流れは、凡そ以下のとおりとなります。



4. プロジェクト事例

クライアント／プロジェクト

TV・出版業界／システム間連携システム再構築プロジェクト

プロジェクト背景

プロジェクトの目的

- ・システム間のインターフェース、及びデータ連携をスムーズにし、改修/障害対応が容易なシステム群とする。
- ・システム間でデータ値が異なる等の不整合を解消する。
- ・コード体系を統一し、ユーザー間のコミュニケーションを円滑にする。

現行システムの問題点と解決の方向性

- ・システム全体像を把握している要員がない。
 - ・インターフェースが複雑で、データ登録先システム(発生源)が不明(調査作業負荷がとて高い)。
- ⇒現状分析により、システム全体像とデータ構造を明らかにするとともに、システムに関するドキュメント(システム間連携図、データメンテナンスフロー等)を整備する。
- ・コード体系が統一されていない(システム間で「もの」や「事象」を示すコード体系が異なり、コード変換がインターフェース毎に行われている)。
- ⇒コード/用語統一のためのデータ標準を定義する。

プロジェクト期間

約3ヶ月(詳細は下記プロジェクト活動スケジュール参照)

プロジェクト効果

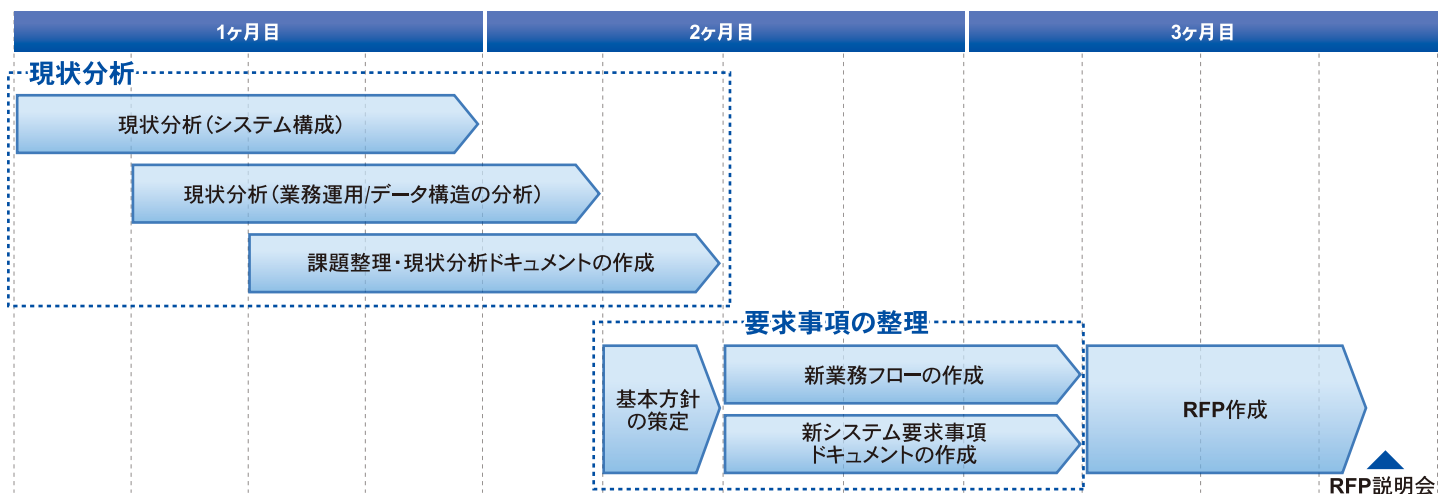
期待された成果

- ・複雑なシステム間インターフェース、データ不整合の解消
データ登録を行う部門/システムを決定したことにより、情報(データ)発生場所から必要なシステムへの経路が短縮され、より簡素なインターフェース構造、データ整合性を確保するシステム要件が定義された。
- ・データ構造の標準化(コード体系の統一と用語の整理)
同一異義語を整理し、コード体系を統一することで複雑なコード変換処理が解消された。また、同じ用語でも捉える範囲(粒度)が異なっていたものが、データ構造の標準化により同一化され、ユーザー間のコミュニケーションが円滑になった。
- ・短期間でのRFP作成
優先順位付けを実施したことにより、早急に解決すべき課題が明確になり、結果的に要件が絞り込まれて、短期間でのRFP作成が実現された。

プラスαの成果

- ・(第三者視点による)問題点の根本原因の判明
部分最適を指向したシステム構築の結果、システムが複雑なだけでなく、異なる部門で個々のシステムに同じデータを登録する等の無駄が発生していることが明らかになった。部分最適でのシステム構築は、既に、社内常識と化していたため、第三者による、外部視点での課題整理が極めて有効に機能したと考えられる。

プロジェクト活動スケジュール



5. クロスフィールドの強み／クロスフィールドだからできること

豊富なシステム導入実績

数多くの日本企業・外資系企業に対し、業種を問わず豊富なシステム導入実績を有しており、クライアントの多種多様なプロジェクトニーズに応じた柔軟な対応が可能です。

多種多様なプロジェクト経験

さまざまなプロジェクト経験に基づく業務知識を豊富に有しており、業務・システムのあるべき論を示すことができます。また、プロジェクトで発生する問題点に迅速に対応できるだけでなく、潜在的リスクを検知して適切な対策を講じることが可能です。

現状分析・課題抽出を強力にサポート

RFPに欠かせない業務/システムの現状把握・キャップ分析・課題抽出において、数多くのプロジェクト実績を有しており、クライアントの事情に合わせた効果的・効率的なプロジェクト推進を実現します。